

この熱気、秋祭りへ



なかま新聞

なかま新聞
編集 新聞部員
姫路市北条宮の町
215番地
TEL079-287-1025

この号で「なかま新聞」も一巡することに
なる。
つまり丸一

年を迎えた次第。

さて、この夏のトップニュースと言えは、なんとと言ってもロンドン・オリンピックだったと言えよう。

ある新聞のコラムニストが「地球村の大運動会」と称していたが、まこと言いで得た妙。その大運動会は四年に一度の開催だが、人種差別も無く政治色を排した見事な祭典だった。この祭典で、わが国には、色とりどり合わせて三十八個の大輪の花がも

たらされた。
アスリート達の活躍ふりを、国民の大方はテレビの前で固唾を飲

みながら声援した。出場した健男健女達は、夫々が抱える苦悩を克服し、弛まぬ努力を積み重ねたところに涙の栄冠が齎され、爽やかな笑顔での帰郷があったのだ。そのようなロンドン・オリンピックは十七日間の幕を閉じた。

引き次ぐようにして恒例の高校野球が甲子園で始まりそして幕を閉じた。これらの熱気とともに猛暑もつづき、人々の体調にも影響を及ぼし熱中症を、更には食中毒が発生し悲しい死を呼ぶに至った。

気温の異常な上昇ばかりではない。近年の降雨のさまは何事か、とボヤキたくなるのは筆者だけなのだろうか。かつての絵になり、詩(うた)に詠まれた風情は無く、まことゲリラの如くに一気に局地的に雷雨や、豪雨を齎す。それは人家に迫り、これを破壊し、将又人命を脅かし犠牲を強いる。これらの現象は、工場などから出る排気ガスが主な原因の地球

の温暖化によるものらしい。ならば、それを減らす努力をすべきだが、「地球村の村議会」では、オリンピックのようにには拗らぬ。困った村議員達だ。

と言いつつも、どつやら二百二十日も無事に過ぎ、いよいよ播州は秋祭りのシーズンとなる。そここの神社には氏子の奉納した幟や色とりどりの紙手棒が立ち、祭り気分を盛り上げる。

祭りの当日には、締め込み姿の男衆の担ぐ屋台が繰り出され、街中を練り歩き、掛け声一斉、屋台は高々と差し上げられる。見せ場である。無事にその日を迎えたいものである。

菊池 武明



写真：岩村和雄



最近の社会情勢を眺めてみると実に病んでいる。

人間が人間といえない人間を育てている。
今、全国的に深刻な問題になっているが、この背景はいったい何なのか。

現代社会が余りにも機械文明に頼りすぎて、人の命の尊さを見過した結果が、自己本位に物事を考え、相手の心を閉ざし、引き裂いたりしているように思う。

親が子供に虐待、子供同士のいじめがこれにあたり、「学校が悪い、社会が悪い」と他者のせいにする傾向がある。小さい時から命の大切さを教えていないところに問題があるのではないかと。

人間が共に生きていくためには、全ての人の痛みを自分の痛みとして置き換えていく努力が必要ではないだろうか。

自分のことは責任をもって行動する人間になってくれるようお願いしたい。

森澤 博

仲間の声

大西 正

長男が小学校六年の運動会のことである。地区対抗リレーのアンカー選手が長男であった。長男は、タスキを三番手で受け取ったが、二人を抜いてトップでゴールした。その時、周りに居た同じ地区の人達から「どこの子?。まさんとこの子やわ」という声を聴き、感動し、うれし涙が止まらなかった。その時、改めて父親であることを実感した。

木下 素子

播州平野に秋の気配が漂い始めると、あちこちから太鼓の音が聞かれるようになり、次第に祭りへのテンションも高まっていきます。十月に入ると、祭りは本番を迎え、先人達の粋を集めて造られた屋台は男性達に担がれて、金色の房をゆらせて練られます。このようにして、祭りは最高潮に達します。祭りに、これ程興奮し期待を寄せ



るのは、播州人の特性でしょうか。ところで、今度開催されるボーリング大会を楽しみにしています。優勝すると、トロフィーが頂けるとか。日頃は、曜日が異なるために顔を会わず機会のない方達との交流も楽しみです。いつも楽しい行事の企画に感謝しています。

和田 浩美

庭の片隅に、一輪のコスモスの花が咲いているのを見つけた。植えた覚えがないので、どこからか種が飛んで来て、芽が出たのだろうか。忙しさに紛れて、花が咲くまで全く気付かなかった。コスモスの花を見て、二十数年前のことが、昨日のことのように思い出された。

結婚式を目前に控えていたある日、実家の庭には、母の大好きなコスモスがいっぱい咲いていた。

ある歌手の歌のように、母と一緒に結婚式の準備をしていた歌のなかの主人公のように「今までありがとう」とは言えなかった。どこか照れ臭い

のと「新居はすぐ近くだからいいや」という、気持ちだったからか……。今年六十八歳になった母に、今なら素直に言えるかも。「育ててくれてありがとう」そして「これからよろしくお願いします」と。

短歌・俳句・川柳

稲穂見て
今年もやるぞと秋祭り

木村 正人

夏祭り
浴衣を染める遠花火

長谷川 和宏

私の孫自慢

三好さんのお孫さん三好諒典くん
(平成二十四年九月二日誕生)



史上最大のパラリンピック

オリンピックに引き続き開催されたパラリンピックが十二日間の日程を終え、九月九日に閉じた。今大会は、パラリンピック発祥国の英国で行われ、二十競技で一六四の国と約四三〇〇人の選手が参加して、史上最大の規模となったそうである。「啓発」をテーマにした開会式は、病により車椅子生活を続けるスティーブン・ホーキング博士が登場し、ショーのナレーションを行った。氏の『いかに人生が困難と思っても、人には必ず成功できるものがある・・・』等の言葉の一言一言には深いものがあつた。正に『啓発』を促す開会式であつたように思う。パラリンピック委員会会長が、ロンドン郊外の村にある病院が開いた大会をきっかけに創設された事を紹介し、『あなた達には世界を変える力がある』と語ったが、人間には何ができるのか、それを成し遂げる強さとは何なのかを、見る人の心に問いかける祭典であつたように思う。

長谷川 和宏